

平成 26 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : iK介護グループホームスマイル

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500064		
法人名	アントレーヴ株式会社		
事業所名	iK介護グループホームスマイル		
所在地	〒025-0314 岩手県花巻市二枚橋第5地割360番地1		
自己評価作成日	平成 26年 7月 5日	評価結果市町村受理日	平成27年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390500064-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390500064-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成 26年 10月 9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 地域交流→8月のスマイル祭りで施設の開放や 花巻看護専門学校実習の受け入れをしております。
2. 2人夜勤体制をしております。
3. 内部研修(外部から講師を招き)で、介護の質向上に努めております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設8年目を迎えるが、基本に立ち回り認知症の理解を深めることを目的に研修に取り組んでいる。夜間は2人勤務体制を敷いており、内1名は看護職の有資格者としているほか、理念が実践に活かされている場面を職員が具体的に自己チェックできる工夫や支援時の不適切な言葉使用の相互チェック機能、お好みリスト活用で利用者の思いの把握等々、随所に工夫と細心の心づかいがあり利用者本位のサービス向上に繋げるために次々と斬新な発想で取り組み、職員資質の向上心が伺える。今年度初めて看取りを経験しており、利用者の重度化が進む中で職員研修の強化を目指している。民家と離れている立地の中で災害時の支援協力体制を近隣の大手コンビニ店と文書で確約しており、夜間の備えも含め、物心両面にわたり利用者・職員の安心・安全に繋げるなどサービス提供体制の取り組みは県内でも屈指の特徴を有している。同地区内に新規開設事業所が増えるなど地域状況の変化を背景として職員体制にも変化があり、事業所には逆風と言える環境要素も少なくないが、これまで培ってきたノウハウと新たなことへも挑戦していこうとする姿勢により、今後も利用者や地域の信頼を得ていくことが期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : iK介護グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝唱和して理念を共有・実践できるように心がけております。	理念はスマイルの羅針盤として開設時に職員みんなで考え掲げスタッフ室に掲示し毎朝唱和して再確認している。「ほほえみ・ゆったり・利用者を大切に・地域との和」、あるべき状態を自己チェックすると共に運営状況・支援場面の中でも相互のチェック機能を発揮しながら実践に繋げている。	理念は日々の実践経験の中からその意義を徐々に感じ取っていくという側面もあり、新任職員はこれからその材料を得ていくと思われる。自分たちの姿勢を客観視する様々な取り組みを実践しているので、今後の経験も振り返りながら理念を大事にしていってほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方がスマイル祭りにいらして下さり交流しております。町内の祭り際には、子供神輿に施設へ立ち寄りいただき、施設を知っていただく機会を作るようにしております。幼稚園や保育園の園児の訪問で楽しく交流を行っております。地元のクリーニング屋を利用し、便宜を図っていただいております。地区の文化祭に利用者の作品を出品しております。近所のコンビニと災害時の協力関係を結んでおります。	民家と離れた立地にあるが地域の自治会に加入し祭りや文化祭に参加している。近隣のコンビニ、クリーニング店とは買い物や非常時の協力関係を築いている。スマイル祭りは職員の工夫と住民の協力を得て会を重ねるごとに参加者が増え地域住民との交流の場として定着してきている。利用者の介護度が高くなるに伴い出かける機会が少なくなり定期的な行事を通じての来訪型の交流にシフトしてきている。	来訪する子ども達には親も伴い幅広い参加となっているほか、お祭りも地域住民が運営に参加し協働的な実践となっていることは非常に意義がある。利用者の重度化に伴い出かける機会が少なくなりつつある状況は、地域の人々が日常気軽に立寄り交流できるサロンなどの場ができるような工夫を更に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の時、介護用品展示コーナーを設けております。地域老人会の方に認知症の理解、支援の説明や社会福祉協議会と共に家族会を開催しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族等の出席で2カ月に1回開催しております。民生委員より公民館へ雑巾を寄付して欲しいと意見があり、利用者と雑巾作りに取り組み寄付しております。	会議は隔月に開催し運営状況やアクシデントレポートの報告をして意見を載している。利用者の持てる力を活かした社会還元を考え、今年度は利用者の生きがいづくりを課題に掲げており委員の情報と提案を得て利用者が雑巾を作り地域の公民館に寄贈している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	平成26年6月に運営推進会議に出席していただき事業所の実状を伝えながら協力関係を築く努力をしております。	地域包括支援センターとは地域ケア会議を通じて情報交換をしているほか、センターが主催する地区の家族会にも去年から参加している。運営推進会議でも時には担当課長の出席を依頼し、行政説明を戴きながら制度や花巻市の各種状況の理解につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての県のパンフレットを全職員で目を通しケアをしております。センサーマットの使用と玄関に鈴を取り付け自由な出入りを見守る対応をしております。	身体拘束について職員全体で学び理解を深めて拘束のないケアに取り組んでいる。特に言葉づかいを大切にし、食事・排泄・入浴などの場面ごとに使っていない言葉リストを具体的に掲げ職員の相互チェック機能も活かして言葉による拘束や不快感もないケアを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に絶対言うべきではない言葉を朝夕に確認し合って一日を振り帰っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の入居中の利用者は皆家族があるので今現在活用する方はおりません。今年度は権利擁護に関する研修会に出席していくべきと感じております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をかけて説明し、利用者家族にできるだけ納得していただけるようにしております。また、変更の際は文章でお知らせして、同意書をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを基に意見を受けとめ、また面会の折に家族の気持ちや意見を聴くようにしております。利用者の気持ちや状態把握にお好みリストを用いて日常生活に生かしております。意見箱を設置しております。第3者委員を設置して、利用者の意見を聴いていただいております	家族からは面会時やアンケートで、利用者は日々の介護時の表情から「にっこりした時・いやな表情」を観察推測し、お好みリストとして記録し運営に活かしている。第三者委員を委嘱し客観的な意見を聴く機会も設けている。夕涼み会には多くの家族が参加し多様な意見を聴くことができることから大切な機会とし戴いた意見・提言は職員で話し合い運営に活かしている。	利用者や家族の気持ちを把握しようとする実践はしていねいで、積極的である。家族の行事参加も多く関係も良好だが、新しい職員も増えた現状ではこれから信頼を構築していく部分もあるため、今後も丁寧に利用者や家族の気持ちを受け止めていってほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務改善会議、介護部代表者会議を通じて意見や提案を聴いて業務に反映させております。利用者の重度化等の介護度に応じて人員配置を検討して、対応しております。	管理者は職員が健康や家庭面で安定し介護に専念できるように日常的に職員との意思疎通に心配りをしている。スマイル祭などの年間・月毎の行事は職員が主体的に企画から運営まで担当しており担当職員の個性やアイデアが活かされ好評である。業務改善会議は定期的開催し介護・施設運営について話し合いを重ねながら意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はグループホームの仕事にやりがいを持っており、また管理者は働きやすい職場環境を作ることに努めております。資格修得者に資格手当が給与されております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会・研修会があれば積極的に参加してもらっております。それを施設内で発表してもらい、知識の共有を図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の同業者と交流する機会を作っております。他のグループホームとの交換研修や運営推進会議へお互いに出席して交流や意見交換をしております。スマイル祭りで他のグループホームを招待し、交流しております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の情報を出来るだけ多く取り入れたうえで面接をし、理解できるようにしております。また事前に施設を見ていただき慣れ親しんでいたできるように配慮しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設を見ていただく事で家族様の意向に沿える環境か判断していただき、また本人様についてのお話をうかがい家族様の心配や要望を十分に聴くようにし、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の思いや要望に耳を傾け、今何が必要かを見極め、スタッフの意見も聞きながらケアプランに生かしております。本人様・家族様の不安を早く解消できるように、また信頼関係を築けるように配慮しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ある程度の距離感を持ちながらも共に生活している者として、一緒に家事・カラオケをしたりテレビを見たり等家族同様の生活を楽しめるよう工夫しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には本人様と家族様がゆっくり過ごす事の出来る環境作りに心掛けております。また行事への参加の機会を持っていただきながら本人様・家族様の絆を大切にしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会を家族様も作ってくださるのでお願いしておりますし、面会に来てくれた知人の方にはまた来ていただけるように声をかけております。併設のディサービスとの交流も大切にして馴染みを深めております。	靴・衣類などの買い物、外食、田植えの見学など家族の協力を得て出かける機会をつくっている。スマイル祭りで偶然再会した知人や時々面会に訪れる友人・親せきもあり、人と人のつながりを大切に再訪を声かけしながら馴染みの関係が継続出来るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良い関係を築けるように座席の配慮をし、職員が間を取り持つようにしております。また利用者様同士が共に仕事やレクリエーションなどを通して楽しみ合える様に見守り、寄り添っております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された家族様よりの相談等には支援に努めております。入院でサービス利用が終了してからも、お見舞いに行き様子を把握しております。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お好みリストを活用して本人様の意向等の把握に努めてアセスメントのツールとしております。また、ミニカンファレンスや申し送りの情報共有で一人ひとりの思いや、希望の把握に努めております。	日々の支援で利用者の「にっこり顔」「いやな顔」をお好みリストとして記録し利用者の思いを把握する一助にしている。鮭を食べたい！との利用者の思いは家族の協力で実現させているなど、申し送りやミニカンファレンスで情報を共有しながら希望や思いを叶えるように努めている。		お好みリストの取り組みは新任職員にとってもわかりやすく実効性が高いほか、利用者ニーズの捉え方も深みを増していく。今後も継続を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や趣味・特技などを事前調査や面会時に情報を得るようにして馴染みのものを居室に置くなど日常生活に活かすようにしております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報交換を密にし、バイタルチェック・排泄状況など利用者本人の状況を総合的に把握するようにしております。またできないことよりできることに視点をおいております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お好みリスト、ミニカンファレンス、スタッフからの情報、家族・本人様の意向・要望をうかがうなどあらゆる面からの情報をもとにケアプランの見直しは職員全員が目を通し、その意見を基に作成しております。	ミニカンファレンス、お好みリスト、家族・本人の意向を基にケアプランの見直しを含めて職員全員で作成している。ケアプランの内容が常に意識できるように支援状況や表情・行動などが並記出来るように様式が工夫がされている。今年度は一利用者の家族と共に案段階からテーブルを囲んでの計画作成が試みられている。	ケアプランを実践のなかで意識化していくための工夫は、職員の姿勢に実を結んでいくと思われる。家族と協働したケースでは、利用者本位のプランが作成された充実感を得ていることから、今後更に多くの家族を巻き込んで計画が見直し作成されることを期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録に介護計画の連動を取り入れ情報を共有し、プランの見直しに活かしております。またスタッフからの情報を活かし、今利用者様に必要なケアは何かを見極めるよう心がけております。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様に帰宅願望がある時には外出・または外泊をお願いするなど、家族様の協力を得できるだけ本人が納得出来るような柔軟な対応が出来るように心がけております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方ボランティア団体の方の訪問を受け入れて活用しております、火災避難訓練では消防職員の指導を受けております。花巻消防署からAEDトレーナーを借り、心肺蘇生法の訓練を行っております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急の場合を除き、かかりつけ医への受診は家族対応をお願いしております。本人の心身状態により家族の方と相談しながら受診時付き添っております。	利用者9人は各々が異なるかかりつけ医であり緊急時以外の受診は基本的に家族対応としている。日々の健康状態は支援記録を基に家族に伝え受診内容の報告を受けて診察内容を共有している。利用者の健康状態に応じて職員が同行受診することもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員・看護職員はお互いに情報を共有しながら利用者の異常に早く気が付き受診に繋がっております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院について利用者が安心して治療できるように病院関係者と情報交換や相談しながら行っております。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針が出来ております。まだ該当する利用者おりません。今のところ契約時に本人家族への説明に留まっております。	家族との話し合いを重ねて9月に看取りを経験している。看取りの指針は作成し看護師有資格職員を中心に重度化と看取りについて緩やかに心の準備をしていたが、遺族の感謝の言葉に取り組みの意義を感じ取っている。看取りについて更に理解を深めるべく学びをしていきたいとしている。	看護師資格所持職員が多く夜勤2名体制で夜間の急変時にも対応できることは大きな強みである。今後の重度化が予測されるなか、係りつけ医の協力を仰ぎながら、職員の知識や心構えが同じ視点で対応出来るように更に研修を重ねられるよう期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署より用具を借りてきて心肺蘇生法やAEDを研修しております。また急変時に備え連絡網を作成しております。家庭内で出来る症状別初期対応の訓練が必要と考えております。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災の通報訓練や初期消火・避難訓練をしております。近所のコンビニにも協力をお願いしており体制を築いております。水害においては市や消防署の協力を得られる事になっております。	毎月9日に火災の通報訓練や、コンセントなど器具の点検をしている。年2回は消防署の指導を得て法人本部・デイサービスと合同で避難訓練を実施している。今年度は夜間想定2人体制での避難訓練を行い暗闇の中で利用者の不安感・安全誘導の課題も確認している。近隣のコンビニとの災害時の協力体制の確立は物心共に利用者・職員の安心・安全の力強い味方となっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人として尊重されていると感じられる時」のテーマで職員全員で取り組んでおります。絶対利用者に使用してはいけない言葉のマニュアルの基に、対応しております。個人記録は書庫に保管管理、メモ類も裏返して個人情報の取り扱いに注意を払っております。	利用者の尊重とプライバシー確保の具体的テーマを定め「もしも自分だったら」シートを作成して自己点検結果を集約し各自が参考にしている。「私が利用者だったら！私が職員だったらこうします！こんな職員好き！嫌い！」を記録し、介護現場での資質を高める参考にしている。使ってはいけない言葉一覧も作成し、職員同士でチェック機能を果たしている。	自己点検は社内全体70人分の意見を集約しており、利用者の立場で自分たちの姿勢を振り返るという観点で、非常に有用な取り組みとなっている。結果の活かし方に難しさもあると思うが、自分たちを客観視するなかで利用者との相互理解と信頼感を今後も継続的に高めていってほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者のそばに寄り添って利用者の気持ちや希望を引き出せるように心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	娯楽・レクリエーションへ無理に参加させないよう利用者一人一人の思いをキャッチできるように心がけております。利用者の出来ることを見つけてグループホームでの役割を持ってもらえるようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望する理容・美容店でおこなっております。希望者にはホーム内で理容をしております。紫色に髪を染めおしゃれできるように支援しております。毎朝の髭剃りや、衣類はいつも清潔にし、希望する衣類を着用するようにしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ利用者・職員と一緒に食事の準備片付けをやるように心がけております。一度に食事を摂れない方には時間帯をずらしたり、このペースに合わせ、また刻み食の必要な方に合わせ、楽しく食事ができるように努めております。BGMを流し、お好みリストの活用で支援しております。	食卓の雰囲気大切にしている。食事介助の必要な方、利用者同士の相性を考慮し、食卓の配置・花・BGM・難聴者のために消音テレビの活用の心配りがある。献立は利用者の嗜好に配慮し職員が作成しており、米とぎ・皮むき・お盆ふきなど利用者の持てる力に応じた担い、まな板の音・煮物の香りを五感で感じながら美味さと楽しさが得られるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事前には口腔体操を行い、食事のときには各テーブルに職員も入り皆の摂取状態が分かるようにして食事量・水分量を把握しております。定期的に体重測定して利用者の健康には気を付けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後に、個々の状態に合わせて歯磨(歯磨きティッシュ等)・うがい・入れ歯洗浄の声掛け・みまもり・介助を行い口腔の清潔に努めております。週2回コップ、歯ブラシの消毒を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録や排泄チェック表で排泄パターンを把握して、できるだけトイレ誘導しております。便秘がちの方もおり体調が整えられるよう下剤使用を含め支援しております。	リハビリパンツの利用者が多いが、日中は排泄チェック表を参考にトイレ誘導を行いトイレでの自立排泄支援に努めている。パット利用もなるべく衣類を汚すことがないように、種類や使い方の検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容・水分の摂取量や活動等を通して体調を整えるようにしております。なお便秘がちな利用者にはオリーブオイルの飲用や、かかりつけ医の指示を仰ぎ、薬、浣腸を使用しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助が必要な方がほとんどなので、時間帯を決めて支援させていただいております。また入浴日以外は足浴を行っております。BGMを流したり、入浴剤を利用しております。	利用者の健康状態に応じて現状では週3回程度の入浴となっている。浴室は個室であり介護度の高い利用者は隣接のデイサービスの特浴を利用している。健康状態や天候も考慮し足浴や清拭も組み合わせた支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え日中の活動を促しております。利用者の生活パターンに合わせて状況に応じて昼寝をしていただいたりと支援しております。睡眠状態の把握、施設内の温度、湿度の調整に努め、冬季には湯たんぽを準備して安眠できるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者本人の薬がよく確認して、また飲んでしまうまで見届けております。薬の変更や追加があれば、連絡ノートや引継ぎ時に、薬効や副作用など申し送っております。看護師は利用者の心身の状態の確認に心がけ、受診時に症状の情報提供をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、畑仕事、家事、創作活動などその方に合った役割を持ち過ごしております。併設のデイサービス利用者とはタイムを楽しんでおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者のほとんどは移動時の介助・見守りが必要な方々なので自由に外出は難しいです。そのような中でもお花見やピクニック、外食などの外出支援に取り組んでおります。出来るだけドライブ、散歩の支援をしております。また、庭の花壇や裏の畑に出て楽しんでおります。	多くが車イス利用者であるが気候と体調に考慮し日常的には庭の花壇や菜園をめぐりで散歩と外気浴を行っている。時節には、家族の協力を得て、花見・花巻祭り・もみじがり・外食などドライブがてらの外出を楽しめるように支援している。健康や道路事情もあり冬期間の外出支援は困難な状況にあるとしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の時から現金を所持している方はおりません。近所のコンビニで買い物の支援をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話ができるように対応しております。年賀状の支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く窓は半円形の大きなガラス張りである、広々としたホールに季節の花を飾り、写真や利用者の作品を展示して、季節感や柔らかな雰囲気を作るようにしております。ホールからは車の往来が見えたり、出窓からは花壇の花を見て喜ばれたり刺激もあります。	廊下やリビングには、行事の思い出の写真や利用者の作品が貼られ、所々に季節感あふれる花が飾られている。利用者の相性・個性に配慮してランダムに配置された円卓は柔らかな雰囲気を醸し出しており、BGMや天窓からの自然光は落ち着いた環境を創り居心地よい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの空間を広くとっており、その中に4つのテーブルを配置しソファを置いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の馴染みの品、思いでの品(ぬいぐるみ、鏡台、写真、花等)を持ってきていただき、利用者の部屋作りをしていただくように家族にお願いしております。居室で家族とゆっくりできるように配慮しております。	個室には使い慣れた小タンスや椅子が置かれ、家族の写真、お気に入りのぬいぐるみがある。窓から黄金色の田園が眺められ、ときおり訪れる家族や友人と落ち着いてゆったりと過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーや手すりの設置をしており、状態に応じて車椅子を使用できるようにして安全には気を付けております。排泄時の疲労予防に安楽タイム、入浴時に滑らないマットを活用しております。居室の入口には名前を表示したりトイレや風呂場も分かり易く表示しております。		